

(1) 『植村正久と其の時代』、第二卷、五〇七ページ。

(2) 東京都編『東京の女子教育』、二八、四六一五〇ページ。

(3) 一八七九年二月二十七日、二十八日および三月一日付『郵便報知新聞』。

第一章で述べたように、東京通商会社跡地に八つの地所が造成され、一八八九年五月、一八九三年一〇月および一二月の三回に分けて競売に付されたが、それまでかなりの数の住宅があり、日本人が住んでいた。クリストファーはそのような住宅の一つを借りたことになる。ちなみに、芥川龍之介の実父・新原敏三（だいはら）も一八八三年から一八九九年まで入船町八丁目で「耕牧舎」を経営し、居留地の外国人などのため牛乳やバター（バター）の製造・販売を行っていたが、龍之介は一八九二年三月一日、ここで誕生した。この点に関しては、岩波書店『文学』、二〇〇二年一一・一二月号に掲載予定の拙稿を参照されたい。

(4) 築地時代のカロザース夫妻については、『都市問題』、一九九一年一月—一九九二年五月号の拙稿を参照されたい。